

第 28 回（通算 146 回）全経簿記検定試験 上級 予想の的中と講評

商業簿記・会計学

科 目		第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
商業簿記		本支店会計	連結会計 的中！	決算三勘定 的中！
会 計 学	第 1 問	正誤問題	正誤問題	正誤問題
	第 2 問	理論穴埋め	理論穴埋め	理論穴埋め
	第 3 問	有価証券の評価	社債	債権の評価
	第 4 問	ソフトウェア	在外子会社 F/S 換算	企業結合

講評

[商業簿記]

商業簿記は、前回につづき 2 問構成でした。予想通り連結会計と決算三勘定から出題されました。問題量は多くなく、時間内に解答できたのではないのでしょうか。

第 1 問は量も少なく、内容も容易でしたので是非、貸借を一致させて欲しい問題でした。

第 2 問は、税効果会計を全面適用していますので、若干難易度が高めであるという印象です。ただ、個々の処理は容易ですので、それらをキチンと解答用紙に反映できたかが得点差につながります。

[会計学]

会計学第 1 問は、従前どおり正誤問題でした。内容は伝統的な会計理論からの出題が半分、その他は、いわゆる新会計基準からの出題です。株式移転、新株予約権付社債については、間違えても仕方ないと思います。7～8 問は正答していただきたいです。

第 2 問は、有形固定資産からの出題となりました。出題予想で、若干気になるとしていましたが、減損会計がここまで問われるとは考えていませんでした。減損会計の対策をしておられる方は少なかったのではないのでしょうか。今回はできなくても気にする必要はないでしょう。

減損会計以外のところは有形固定資産の典型的な論点でした。

全体で 6 割取れば御の字ではないのでしょうか。

第 28 回（第 146 回）全経簿記検定試験 上級 予想の的中と講評

工業簿記・原価計算

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
工業簿記	部門別個別原価計算 的中！	標準原価計算	工程別組別総合原価計算
原価計算	設備投資意思決定	差額原価収益分析 + 事業部制	直接原価計算 + 最新原価計算

講評

[工業簿記]

工業簿記は、部門別個別原価計算が出題されました。予想でも第 1 予想に挙げていましたし、基本的な問題であったといえますので、しっかり対策をしていた方は高得点が狙えるのではないのでしょうか。

今回の部門別個別原価計算では、問 1 が製造指図書別原価計算表の作成でした。作業屑や仕損品の評価額を資料の読み取れたかという点がポイントになります。その他の仕訳問題、勘定記入の問題は基本的でありましたが、製造間接費差異については、実際発生額を正確に集計できたかという点がポイントになります。

上記の箇所で行ったミスをしてしまったとしても致命傷にはならないと考えられます。また、理論についてはそれほど差がつかないと考えられますが、知っている範囲で 1 行でも 2 行でも記述していただきたかったと感じました。

[原価計算]

原価計算は、CVP 分析が出題されました。予想には挙げていませんでしたが、前回に比べると難易度は下がった感じがしました。

ただ、平成 17 年度の損益分岐点販売量の計算では売上高の構成比率が変わっていましたので、この点に着目して解答できれば、完答が可能な問題でした。仮にこの点ができなくても、他の部分でしっかり得点できていれば合格ラインに届くと思われます。